



その次も同じように、「平和を維持し」というのは、「国際社会」であって、日本国民がという論旨ではない。「専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しよう」と努めてある「国際社会」というように、言葉がかかっている訳ですから、何をかいたんやという話です。私は、このような尊厳を失った憲法の前文の部分は何として変更するためには、憲法改正が必要だと考えています。それには、まずどのような国をつくっていくべきかという議論を徹底的に行う必要があるのではないかと思います。

友愛革命

私は、その一つの「解」が、「友愛革命」を成就させることだと思っています。すなわち、一人一人の「個々人の心の中」に「友愛の精神」を導いていく、そんな国をつくっていくことが、どのような国を目指すかという問題の「解」ではないか、ということを感じておきます。

「友愛の祖」ともいえる、クーデンホッフ・カレルギー伯爵のことに關しては、すでにご存知のことと思います。彼は、著書のなかで、友愛革命を説いていたわけですが、そのカレルギー伯爵の著書を、祖父の鳩山一郎が訳し『自由と人生』と題し、発表しました。

「自由と人生」という本の意味するところは、川手塾長補佐が（財）日本友愛青年協会の常務理事の立場から書かれた、『友愛理解のために』という非常によくできた、小冊子の中にいろいろと載っております。ご理解を深めていただきたいと思っております。

ある「個々人同士を相互に認め合う」「個々人は「人格の尊厳」という言葉で表現できると思いますが、「人格の尊厳を尊重する」というのが、友愛革命の「友愛精神」と呼んでいるわけですね。求めるところは、「レイディー」と「ジェントルマン」が社会を構成すればよいのだと、川手塾長補佐の『友愛理解のために』にはまとめられています。

「レイディー」と「ジェントルマン」にはどのような性格が求められているかといえば、例えば、堅毅とか優雅、あるいは教養、真摯、清潔、懇懇、優雅、教養、真摯、清潔――政治家が全部欠けているものではないかというように思っています。（笑）

違う個性を相互に尊重し合う、「人格の尊厳」というものを尊重し合える社会をつくりたい。それが「友愛社会」です。

友愛精神

その根本的な発想は、お互い一人一人の人間というものは、個性を持った、違う存在である。違う存在で

違ふ個性、国の人格という言い方もおかしいのですが、それをお互いに尊重しながら、お互いにより協力をし合っているのではないかと、戦争のない社会をどうやってつくるかという発想の中で出てきた「汎ヨーロッパ主義」であったわけですね。

しかし、彼はそういったことを提唱しましたが、彼自身がその実現を見て亡くなったわけではあります。後世のさまざまな政治家たちがこういつた発想というものを大事にしながら、その主張、主義というものをうまく現実の姿として、つくり上げていったか、こそ実現したのです。ヨーロッパの政治家たち、あるいは政治家ではないさまざまな方々の努力というものは、並々ならぬものがあるのだと思います。

特に、フランスとドイツが激しく対立をしていた事実が、世界史の中にあります。そのフランスとドイツが「二度とけんかをしなだめよ」という発想をどうやって現実のものにするかというところに注目したいと思えます。これには、フランスのシューマハーという外務大臣が提案をして、欧州の「石炭鉄鋼共同体」を現在のEU議会のある地域につくっていったわけですね。その地域の資源というものをお互いに協力しながら掘り出していく、掘って石炭、鉄鋼をともに活用することによってではないかと。ともに憎み合っていた国の人々同士が集まって一

つの共同体というか、まさに会社をつくって運営をするということを実行に提唱して、実現をさせてきました。これがそもそもそのスタートだといわれているわけですが、これが現在のEUの発端になっていったのです。

フランス革命・自由・平等

先ほど、フランス革命の話をいたしました。フランス革命について言えば、私は、カレルギー伯爵と多少解釈の違うところがあります。フランス革命のときの状況というのは、貴族対平民（農民）という対立構図があった。搾取管理している者から自由、平等を勝ち取るといふ目的がありました。したがって私は、フランス革命においては、自由と平等というのは、基本的には成就されたのではないかと考えております。

今、私はクーデンホッフ・カレルギーの話を引用しながら、人格の尊厳の尊重ということを大変強調したわけですが、そこに言われている「自由・平等・友愛」について考えを述べます。

私は、「自由とは何か」ということを聞かれたときに、「自由」というのは、放つとか放縱というものであってはならない。自由というものは、あくまでも人々が自分たちの持っている良心に従って行動し得る状態を指すのだ」という鳩山一郎の定義、私は、これは正しいと思っています。

自由・平等とは

すなわち、自由というのは、何をやっても構わない、すべての束縛から解放されているという話ではありません。

財団法人日本友愛青年協会 主催

平成20年度 文部科学大臣奨励賞

第19回 友愛ドイツ歌曲(リート)コンクール

本選会出場者決まる 11月28日(金)旧東京音楽学校演奏堂にて最終選考

「自分自身の良心に従って行動することができるといふこと、それが自由である」という自由が与えられるという自由が、そのこと自体が非常に平等な状況だと私は考えております。ですから、クーデンホッフ・カレルギーは、自由と平等が、現代的に見れば、対立するあるいは矛盾するといっておりますが、本当は理想的に合致している。

（財）日本友愛青年協会の文化振興 国際交流事業の一環として開催している「友愛ドイツ歌曲(リート)コンクール」は、第19回の開催を数えている。今回も平成20年度文部科学大臣賞の栄冠を目指して、多くの応募があった。第一次予選、第二次予選を勝ち抜き、本選会出場に輝いたのは9名(内学生2名)。毎年水準が高くなっている審査員の先生方の評にもあつたが、9名の精鋭が本選会での最終の栄冠を目指して競演することとなった。紙上に9名の方々をご紹介します。

第一次予選は10月二十八日(火)文京シビックホールで開催された。全国から集った声楽家、伴奏のピアノリストの方々は、緊張の面持ちで控え室にて出演の順番を待っている。会場の足の便がよいいためか、平日にも関わらず、入場者が多い。一般の部の演奏が終わる、学生の部の演奏へと続く。審査員の先生方も、丸一日という長丁場にも関わらず、熱心な採点が続いた。

審査の結果、三十二名が二次予選に進むこととなった。出演者の水準の高さに審査員の先生方も採点には苦慮されたようだ。

十月三十一日(金)二次予選が行われた。

本選会と同じ「旧東京音楽学校演奏堂」が会場となる。演奏堂は、音楽を目指す者にとつては、憧れの殿堂といわれているところだ。こゝで演奏することにも、意義があるのだ。

控え室で舞台衣装に着替えて、外に出て声を慣らすために発声の練習をする出演者、あるいは、イメージを固めているのだろうか、実際に同じ動きで声を出さずに練習する出演者など、様々。演奏堂の客席は、前回に増して観客が多い。緊張がいやが上にも高まっている。

全ての演奏が終わる、慎重な審査の結果、9名の本選会出場者が選ばれた。

発表を貼り出したロビーは、悲喜こもも、それで

も最後は皆笑顔で帰路についた。
本選会出場者が残って、当日の説明を受ける。全員笑顔の中にも、本選会への強い闘志がみなぎっていた。

東京芸術大学大学院修了
ピアノスト…大田佳弘
高橋幸恵
メゾ・ソプラノ
国立音楽大学大学院在学中
ピアノスト…清田千絵

中
全 詠玉
ソプラノ
国立音楽大学大学院在学中
ピアノスト…高田絢子

池田尚子
ソプラノ

京都市立芸術大学卒業
ピアノスト…五十嵐恵美

能勢健司
バリトン

愛知県立芸術大学大学院
ピアノスト…福崎由香

海野美栄
ソプラノ



原田勇雄さん



朝倉春菜さん



大塚真弓さん



池田尚子さん



全 詠玉さん



高橋幸恵さん



西村有希子さん



海野美栄さん



能勢健司さん

日中緑化交流基金 (財) 日本友愛青年協会

湖北省三峡ダム第四期植林事業に着手
昨年度の雪害対策も含め、最大規模のプロジェクトに

(財) 日本友愛青年協会では、環境保護と国際交流を目的とした事業の一環として、平成二十二年より「日中緑化交流基金・中国植林プロジェクト」に取り組んでいる。
第一次の訪中国派遣以来、毎年訪中国を結成、多くの若者を中国に派遣した。また中国においても青年との交流の場を設け、けん玉大会などを媒体に多くの交流を行ってきた。
本年度も第三次植林訪中を決め、広く団員を募ったところ、十五名の参加者を得て、十三次植林訪中が組まれることとなった。
今回の派遣団の特徴は、関連団体である「鳩山友愛塾」の塾生が多く参加していることである。鳩山友愛塾において募集をしたところ、八名の参加を得た。
「友愛」からは、川手正一郎常務理事が団長として参加、福田八州雄評議員も例年通り参加することとなった。このお二人は第一次派遣より、一度も休むことなく、参加を続けている。

第十三次植林訪中団

団長 川手正一郎
(財) 日本友愛青年協会

福田八州雄(評議員)
羽中田元美(事務局)

一般参加

谷藤 幸(学生)
白谷智成(学生)
田中達也(学生)
原 俊子(学生)

鳩山友愛塾推薦

田村文彦
田中佐知子
小西健斗(学生)
木村正治
鈴木章太(学生)

中華全国青年連合会より 植林現場の近況報告届く 繁る葉 林なす木々

日中緑化交流基金の植林活動支援により、平成二十二年より実施している、環境保護・国際交流事業としての「中国植林活動」は、実績を重ね植林実施地区は、十五カ所に及んでいる。今年度も湖北省、福建省の二カ所で植林活動を行う予定だが、先頃中国側の受け入れ、実施を担当している「中華全国青年連合会

月を経て数メートルにまで大きく育った木々、茂れる葉など、中国の大地にしつエクト(平成十三年一月実施、第一次・二次の訪中で植えた木々)メートルほどの苗木が立派な林を造っている。七年の年月の成果

かり根付いた様子から、「友愛」の植林活動の成果を「確認」いただきたい。
上の写真の木々を更に近づけて写したのも、ユカリの新種(新たに開発された環境保護に効果的な品種)は、葉を繁らせ、充分な炭酸同化効果を発揮している

行程は、成田から青島經由で湖北省武漢空港に、さらにバスで五時間程移動し、宜昌市内へ。植林現場はその先、という厳しいものであるが、多くの団員の力を結集して、大きな成果を残すことを期待したい。

小池勇喜(学生)
井之輪 豪
小田切 孝
(敬称略・順不同)
第十三次植林訪中団は、十二月十二日(金) 成田を出発。十二月十五日(月)に帰国予定である。



广西柳江项目区远景(1)



广西柳江项目区远景(2)



广西鹿寨项目区纪念碑

中華全国青年連合会国際部部長、植林現場を視察、「友愛(VUA)」の前で



广西鹿寨项目区近景



广西柳江项目区近景

広西柳江地区水土流失防止プロジェクト第三期(平成十五年一月実施、第三次、五次の訪中で植えた木々も大きな葉を繁らせる。活着率も九十%を超え順調な育成だ

鳩山友愛塾 多彩な講師陣を迎え順調に講義進む

鳩山由紀夫・鳩山邦夫塾長代行も寸暇を割いて講義を実施

鳩山友愛塾は、夏休み明け九月九日より後期授業を開始。前期に引き続き各界からの多彩な講師陣に、塾生も確かな手応えを感じているようだ。

鳩山由紀夫・鳩山邦夫塾長代行も、多忙のなか予定の講義は確実に実施、塾生を喜ばせている。

.....

九月九日 第八回 講師：国際日本文化研究センター 安田喜憲教授

「日本人は旧石器時代のDNAを持ち続けている」という謎のような、ショッキングな言葉から安田先生の講義は始まりました。

もちろん、この言葉に塾生一同のみならず、聴講の役員一同も惹き付けられ、時間がとても短く感じられる充実の講義でした。

「人類の進歩と平和のためには、国際結婚がどんどん進んで、地球が一つの民族になるのが理想」というロマンのある説。エネルギーシナ話をしつと、意表を突いた発想に、全員感服

の態でした。

九月二十四日 第九回 講師：鳩山由紀夫塾長代行

「友愛塾」第二回目の講義です。政局波乱の状況下、相変わらずお忙しい全国を回っている塾長代行です。

「自分では執筆された資料を基に、友愛の外交から始まり「友愛の経済」と話は進みます。それでも思いの全てを伝えるには、八〇分といえども短すぎるようで、熱い語り

口調で、「次もまた皆さんと友愛を語りたい」と講義を終えました。

塾生の質問も多岐にわたる、その後のホームページの書き込みにも変化が現れ、塾長代行の思いの強さを物語っています。

十月七日 第十回 講師：東京大学大学院経済学研究科 神野直彦教授

この講義を一番楽しみにしていたという塾生もあり、期待に違わず大満足の講義でした。

「経済」という堅い響きの「学問」も、神野教授の解説によれば、斯くも身近な出来事、現象としてとらえられるのだという素晴らしい体験です。「学ば」ということの、多面性を再認識させられる講義でした。

十一月十一日 第十一回 講師：鳩山邦夫塾長代行

五度目の大臣就任となった「鳩山邦夫総務大臣」が、激務の寸暇を縫って講師として駆けつけました。

総務大臣というのは、国家を維持するために必要な「事務方」の元締めであり、国の活動全てに携わっていること、の、多面性を再認識させられる講義でした。

重要な役割を担っており、担当範囲は行政組織、公務員制度、地方行政、選挙、消防防災、情報通信、郵政事業など多岐にわたります。そのため、非常に多忙な日々を送っておられること、またそれぞれの分野の役割、今後の課題などを豊富な資料を基に、詳しく講義されました。

塾生が「すき焼き弁当」に舌鼓を打っている間も、「余談ながら」と様々なお話をされ、塾長代行と塾生の和やかな時間が流れます。

また、この日は川手正一郎塾長補佐による「友愛」についての話しがあり、塾生の希望も多いことから、今後日程をとり「友愛理解のために」を基に、

重要な役割を担っており、担当範囲は行政組織、公務員制度、地方行政、選挙、消防防災、情報通信、郵政事業など多岐にわたります。そのため、非常に多忙な日々を送っておられること、またそれぞれの分野の役割、今後の課題などを豊富な資料を基に、詳しく講義されました。

塾生が「すき焼き弁当」に舌鼓を打っている間も、「余談ながら」と様々なお話をされ、塾長代行と塾生の和やかな時間が流れます。

また、この日は川手正一郎塾長補佐による「友愛」についての話しがあり、塾生の希望も多いことから、今後日程をとり「友愛理解のために」を基に、

重要な役割を担っており、担当範囲は行政組織、公務員制度、地方行政、選挙、消防防災、情報通信、郵政事業など多岐にわたります。そのため、非常に多忙な日々を送っておられること、またそれぞれの分野の役割、今後の課題などを豊富な資料を基に、詳しく講義されました。

塾生が「すき焼き弁当」に舌鼓を打っている間も、「余談ながら」と様々なお話をされ、塾長代行と塾生の和やかな時間が流れます。

また、この日は川手正一郎塾長補佐による「友愛」についての話しがあり、塾生の希望も多いことから、今後日程をとり「友愛理解のために」を基に、

友愛アルバム

とおきの「こま」をご紹介します



シルクハットに礼装、正式礼装に身を包んだ一郎先生の投球フォームです。時は昭和七年、四月二十三日、神宮球場にて行われた六大学野球の試合で、文部大臣として始球式を務められた折りの珍しいお写真です。試合は早稲田大学対慶応大学、六大学野球の試合の中でも常に話題を集めた「早慶戦」の始まりです。残念ながら試合結果は？ですが、打者を空振りには留めた一郎先生の得意げな、嬉しそうな笑顔が、お人柄の一面を表しているのではないのでしょうか。



第8回 安田喜憲教授



安田教授と鳩山邦夫塾長代行は旧知の仲



塾生と対話をする如く、講義が進む



第9回 鳩山由紀夫塾長代行



第10回 神野直彦教授



鳩山由紀夫塾長代行を始め、役員も熱心に受講

塾生と友愛についての話し合いが行われる旨が発表されました。



第11回 鳩山邦夫塾長代行



川手正一郎塾長補佐

『読売時事川柳』で活躍の服部迪夫氏の作品をこ紹介させていただきます。

時事川柳 服部迪夫 作

一新閑取・四ツ車
歌舞伎座で土俵入りする夢を見る
一 女流王将戦・休止
タイトル戦将棋盤にもある格差
一 ノーベル賞量産
学究の中核になる名古屋大
一 CM出演
予報士が売れっ子になる空模様
一 落選 春樹
ノルウェーで足留めを食う文学賞

◆世界経済の変化が激しく、政治も混迷きみ。そして、リーダーシップの在り方が改めて問われる時代となりました。リーダーやリーダーシップの究極については、いろいろな見方や考え方がありますが、私の核の切り口からすれば、その核心は判断力と決断力。判断の基準は、真、善、美。決断は組織、個人、に関わりなく、命そのもの。従って判断力は情報の真偽、決断力は人格。最近のリーダーを慮ると、変化や混乱の今こそ国民は強いリーダーシップを持ったリーダーを希求している。そして、政治家にとっては、将来を見据えた輝くビジョンと戦略を示す最適時。そんな気がしてならない。

◆十一月は晩秋でしょうか。初冬でしょうか。いずれにしてもの哀しき、寂しい雰囲気があります。しかし、牡蠣がふつくと太り、栄養と美味しさを蓄える最高の季節でもあります。私は生ガキが大好きです！一ダースでも二ダースでも平気！ のの哀しきは牡蠣で吹き飛ばします？！ (も)

◆「実りの秋」も最終版、今年はお天気に恵まれたためか、お米も野菜も果物もどれも大変美味しく、豊潤な秋の恵を堪能することが出来ました。衣食足りて：でしようか、満腹のお腹を眺めながら、何事にも、気を引き締め、謙虚に頭を垂れて臨まなければならない。(エ)